

2013 年度事業報告

1. 事業名、2. 事業実施国・地域、3. 事業期間、4. 従事者数、5. 事業実施の経緯、6. 事業目的、7. 裨益者、8. 事業費について下記にまとめる。事業内容、成果については別紙も参照。

パプアニューギニア

事業名)

公共心が少ないと言われる国、パプアニューギニアでの道路整備

事業実施国、地域)

パプアニューギニア独立国、ウェスタンハイランド州、サザンハイランド州、エンガ州

事業期間、従事者数)

2013 年 4 月より 2013 年 9 月、2 名 (木村、福林)

事業実施の経緯と内容)

1. 2005 年度より農道整備事業を実施してきた実績が認められ、アジア開発銀行とプロジェクトのマネジメント契約を締結した。2009 年より 2013 年 (当初 2013 年 3 月までの予定が 2013 年 9 月まで延長、国政選挙等で事業に遅れが生じたため) までサザンハイランド州、エンガ州の 8 つのコミュニティを対象に事業を実施する。マウントハーゲンに現地事務所を設置し、アジア開発銀行のプロジェクトを中心にした新しい活動を 2009 年 10 月より実施した。
2013 年 9 月、パプアニューギニア政府道路省とアジア開発銀行より、コミュニティ参加による道路整備事業のモデルとなりうると評価され、終了した。
2. 理事長が研究代表者を務める科学研究費プロジェクトに、研究協力者として参画した。マウントハーゲン郊外の山間部の村で勾配のある農道の整備を行った。対象コミュニティとは継続して道路整備、アソシエーション設立に向けて支援活動を実施した。
3. 多摩火薬機工(株)より、日産キャラバンの寄贈を受けパプアニューギニア事務所に運搬した。現地における連絡車として運用中。

事業目的)

公共心が少ないと言われる国、パプアニューギニアにおいて、土のうによる農道整備、簡便インフラ整備手法を住民へ技術移転、定着させ自分達の道は自分達で直すという意識を広げる。道路整備とともに、収入向上、保健、ジェンダーに関する教育を行い、社会経済利益の向上を目指す。

裨益者)

ウェスタンハイランド州、サザンハイランド州、エンガ州の住民約 15,000 人

事業費)

4,143,990 円

ケニア_1

事業名)

農民組織の持続的な活性化に向けた土のう工法を用いた農道整備事業

事業実施国、地域)

ケニア共和国、ワーレン、エルドレットウエスト、エルドレットイースト、ガタンガ、ラリ、ギツウングリ、キアンブーウエスト、ウワシンギシュ、バリngo、エルゲヨマラクエット、キアンブ、ム

ランガ、キリニャガ、タラカニティ県

事業期間、実施者)

2013年4月より2014年3月、5名(木村、喜田、松本、本庄、酒井)

事業実施の経緯と内容)

1. ケニア国で設立・登録した NGO、COmmunity Road Empowerment (CORE)を母体とした活動を実施している。
2. 外務省「日本 NGO 連携無償資金協力」より資金協力を得て事業を開始した。第二フェーズに引き続き、最終年となる第三フェーズを開始。新たにセントラル州のコーヒー、紅茶組合への農道整備研修を実施している。事業範囲拡大に伴い、ナイロビにも事務所を設置した。
3. トヨタ環境活動助成プログラムより昨年に引き続き助成金を獲得し、農道や河川堤防など農村インフラ整備、表土流出防止対策工による環境保全、苗木作成などの環境プロジェクトを実施している。
4. 現地で活動する日本の NGO、チャイルドドクターと協働し、スラムで道路整備を行った。
5. 日本より学生ボランティアを受入れ、現場体験・視察の機会を提供した。
6. 土のう工法が労働集約的で効果的な農道整備手法の一つとして、ケニア政府道路省より公式に認定された。
7. ケニア政府が 2030 年までに中所得国入りを目指す長期経済開発戦略 Vision 2030 の重点目標である、若者雇用の促進に土のう工法が有効な技能として、公的研修機関に土のうコースが創設された。
8. 国連機関、国際労働機構より委託を受け、上記コースでの 20 の若者グループへの研修を実施した。
9. 8.の研修後、12 の若者グループが土のう工法を習得し、道路施工業者として起業、工事を受注し事業を実施している。
10. 安倍総理は、1月14日アフリカ連合(AU)本部において、アフリカ政策スピーチ(『「一人、ひとり」を強くする日本のアフリカ外交』)を行った。その中で「道普請人」、特にケニア事務所の活動が紹介された。
11. 連絡車を調達し、遠隔地や悪路の先にあるプロジェクト実施地域への移動や物資の運搬に役立っている。
12. ケニア人スタッフも含め 13 人が CORE Kenya で活動している。

事業目的)

ケニア農業省を通じ農民組織へ土のうによる農村インフラ(農道、小規模ダム)整備手法の技術移転、定着化を図る。農道整備をきっかけとした農村社会開発を行う。また森林伐採が国家問題となっていることに対して、草の根レベルでの環境保全活動を促進し問題解決に貢献する。

裨益者)

土のうによる道路整備や環境保全プロジェクトを実施したワーレン、エルドレットウエスト、エルドレットイースト、ガタンガ、ラリ、ギツウングリ、キアンブーウエスト、ウワシンギシュ、バリング、エルゲヨマラクエット、キアンブ、ムランガ、キリニャガ、タラカニティ県の農村部住民、約 20,000 人

事業費)

37,488,505 円

ケニア_2

事業名)

小規模園芸農民組織強化・振興ユニットプロジェクト

事業実施国、地域)

ケニア

事業期間、従事者数)

2013年4月、2013年10月～12月、2名(木村、福林)

事業実施の経緯)

1. (独)国際協力機構が実施する技術協力プロジェクト(小規模園芸農民組織強化・振興ユニットプロジェクト)へ専門家を派遣した。

事業目的)

農業省普及員や農業土木技術者が、小規模園芸農民組織に対して土のうを利用した農道整備手法の研修が実施できるようにする。

裨益者)

ケニア農業省が全国で担当する農家、不特定多数

事業費)

1,520,429円

タンザニア

事業名)

コミュニティ参加による土のうを利用した農道整備事業

事業実施国、地域)

タンザニア、トゥクユ市

事業期間、従事者数)

2013年4月より2014年3月、3名(木村、酒井、福林)

事業実施の経緯と内容)

1. 財団法人日本国際協力財団より助成を受けて、トゥクユ市、ATTI (Appropriate Technology Training Institute, 適正技術研修センター)と連携して、コミュニティに対して土のうによる農道整備研修を実施した。

事業目的)

タンザニアにおいて、土のうを利用した農道整備手法の普及を図り、農村部と市場、社会サービスへのアクセスを向上させ貧困削減に寄与することを目的とする。

裨益者)

ATTIスタッフ、トゥクユ市道路行政関係者、ATTI周辺コミュニティ、など約1,000人

事業費)

1,781,806円

ザンビア、ブルキナファソ、モザンビーク

事業名)

日本の NPO、社会企業、現地道路行政関係者と連携した住民参加による橋梁架設事業、土のうを利用した農道整備、土のう工法の普及活動

事業実施国、地域)

ザンビア、ブルキナファソ、モザンビーク

事業期間、従事者数)

2013 年 4 月～2014 年 3 月、2 名（木村、福林）

事業実施の経緯)

1. 日本の NPO 法人 TICO の要請を受け、その ザンビア の活動地域において、住民参加による橋梁架設に向けた調査を実施した。
2. 社会企業、(株)ア・ダンセの要請を受け、その活動地域である ブルキナファソ にて、住民とともに土のうを利用した農道整備を実施した。
3. モザンビーク の道路管理者より要請を受けて、NEXCO 西日本 からの寄付金の一部を利用し、現地藤島 JICA 長期専門家の協力を得ながら、土のう工法の普及に向けた調整を実施した。

事業目的)

開発途上国農村部が孤立する要因のひとつは、雨季に河川が増水し渡河できないことにある。住民参加で橋を架設することで、大きなインパクトを与えることができる。他 NPO より紹介を受けたザンビアのコミュニティとともに、橋梁架設を行い雨季に孤立すること防ぐ。

現地調達可能材料を用い簡便な土のうによる農道整備手法を研修することで、住民に自信とやる気を与え、生活環境改善に向けて自ら努力し続けるようなきっかけを与えることを目的とする。

また道路管理者に、生活道路の整備手法として住民参加で行う土のう工法の有効性や公共道路事業の中で若者雇用促進に効果的な技能であることを認知させる。

裨益者)

ザンビア、チサンバ県の住民約 2,000 人、ブルキナファソ、コモエ県の住民約 4,000 人、モザンビークの農村部住民不特定多数

事業費)

602,687 円

東ティモール

事業名)

コミュニティ道路整備アジア開発銀行協調プロジェクト専門家派遣（労働集約工法）

事業実施国、地域)

東ティモール

事業期間、従事者数)

2013 年 4 月～2014 年 2 月、2 名（木村、福林）

事業実施の経緯)

1. アジア開発銀行プロジェクト担当者 の要請を受けて、2009 年に木村理事長が東ティモール道路管理者、援助関係者らに土のう工法を紹介した。
2. (独) 国際協力機構 (JICA) がアジア開発銀行と協調してプロジェクトを実施することになった。

た。2011年に、JICAより福林が現地へ派遣され、土のう工法のデモンストレーションを実施した。

3. 同プロジェクトでコミュニティへの農道整備に関する技術指導の役務を、JICAより受託して実施した。

事業目的)

コミュニティの農道整備能力を強化することで、自分達で農道改修を行い通行性を改善できるようにする。市場や社会サービスへのアクセスを高め、また道路整備技術を身につけることで雇用の機会につなげ、現金収入が得られるようにする。

裨益者)

東ティモール、ボボナロ州、コバリマ州、対象道路沿線住民約 2,000 人

事業費)

1,791,936 円

ミャンマー

事業名)

ミャンマー、住民グループの未舗装道路整備能力強化による農道改築事業

事業実施国、地域)

ミャンマー、エーヤワディー管区、カレン州

事業期間、従事者数)

2013年4月～2014年3月、4名（木村、酒井、荒木、田中輝彦会員）

事業実施の経緯と内容)

1. 在ミャンマー日本大使館から当団体活動に関心が寄せられた。現地 NGO セダナーの紹介を受けた。
2. セダナーは、日本財団、在ミャンマー日本大使館草の根事業の支援を受けコミュニティ開発事業を実施している。木村理事長が2回にわたり現地入りし、調査、施工準備、土のうを利用した農道整備研修をセダナー担当者と協力して実施した。
3. 現地 NGO、Dear Myanmar と連携し、外務省「日本 NGO 連携無償資金協力」より資金協力を得て事業を開始した。
4. 粘性土地盤、水没するような地域での道路整備で専門技術が必要なため、定年退職されたシニア層の会員に専門家として現地入りしてもらい、技術指導を得ている。

事業目的)

軍事政権下で抑圧され西側支援が行き渡らなかったミャンマーにおいて、コミュニティの組織力を活かした農道整備を行う。

裨益者)

ミャンマー、エーヤワディー管区、カレン州、不特定多数

事業費)

13,477,193 円

ミクロネシア連邦

事業名)

JICA 太平洋州地域廃棄物管理改善支援プロジェクト運営指導調査、土のう工法

事業実施国、地域)

ミクロネシア連邦、チューク島

事業期間、従事者数)

2014年2月、1名(福林)

事業実施の経緯)

1. 2012年5月のソロモン諸島で在ソロモン諸島大使館草の根事業を実施する日本人専門家より要請を受けて、土のうによる農道整備研修を実施した。
2. この日本人専門家より紹介があり、JICA 太平洋州地域廃棄物管理改善支援プロジェクトより要請を受け、土のう工法による未舗装道路整備手法の研修を実施した。
3. 廃棄物処分場への道路で、管轄の公共事業省、周辺コミュニティと協力して道路整備を実施した。

事業目的)

人力と現地調達材料でも道路が整備できることを示し、住民や公共事業省の自発的な未舗装道路改修活動を活性化することを目的とする。

裨益者)

ミクロネシア連邦、チューク島、約1,000人

事業費)

(208,928円、人件費補てん)

ベトナム

事業名)

JICA 研修員所属先現地大学と連携した土のうによる農道整備

事業実施国、地域)

ベトナム、ハノイ

事業期間、従事者数)

2013年5月、1名(木村)

事業実施の経緯)

1. JICA 研修員として来日し、木村理事長の講義を受け土のう工法に関心を示した研修生が、帰国後現地でのさらなる技術指導を要請した。

事業目的)

コミュニティの農道整備能力を強化することで、自分達で農道改修を行い通行性を改善できるようにする。市場や社会サービスへのアクセスを高め、また道路整備技術を身につけることで雇用の機会につなげ、現金収入が得られるようにする。

裨益者)

ベトナム、ハノイ、不特定多数

事業費)

70,000円

国内

事業名)

国内・講演・広報共通事業、アフリカの道普請人達 ～人々の道への思い、道直しに汗を流す姿、改善された道に至る、アフリカ道普請活動の発信～（「Panasonic NPO サポートファンド for アフリカ」助成事業）

事業実施国、地域)

日本国内、ケニア

事業期間、従事者数)

2013年4月～2014年3月、3名（木村、酒井、福林）

事業実施の経緯と内容)

1. 「Panasonic NPO サポートファンド for アフリカ」の助成を受け、団体単独での広報活動を実施した。
2. 一週間にわたり京都で展示と活動報告を行い、飛び出す絵本のパンフレット（日本語版や英語版）を作成した。
3. 横浜での TICAD V で、活動紹介を実施した。
4. 各地で講演会（10回）、京都で展示会を2回（国際協カステーション、ゼスト御池）実施した。

事業目的)

活動7年目を迎えて NPO として広報活動を充実させ、より多くの方に活動内容を伝え支援者を増やす。

裨益者)

国内、不特定多数

事業費)

1,086,949 円

2013年度上半期活動内容

主な活動	2013					
	4	5	6	7	8	9
パプアニューギニア						
アジア開発銀行プロジェクト、マネジメント活動(木村、福林)		—	—	—	—	—
ケニア						
外務省H24年度NGO連携無償資金協力事業(木村、喜田、松本、本庄、酒井)	—	—	—	—	—	—
他NGOと連携したスラムでの道路整備事業(喜田、松本、本庄、酒井)			—			
環境保全プロジェクト(喜田、松本)						
学生スタディツアー(木村、喜田、松本、本庄、酒井)						—
JICA小規模園芸農民組織強化振興ユニット事業での技術指導(福林)	—					
タンザニア						
コミュニティ参加による「土のう」を利用した農道整備事業(木村、酒井、福林)					—	
東ティモール						
アジア開発銀行・JICA協調プロジェクト労働集約工法専門家派遣(木村、福林)				—		—
ベトナム						
現地大学と連携した「土のう」による農道整備(木村)		—				
国内						
広報活動(木村、岸田、福林、酒井)	—	—	—	—	—	—

総会

主な広報活動

日程	内容
4月25日	日本のNPOとして初！国連グローバルコンパクトに署名・加入(木村・福林)
5月1日	「JICA's World」5月号の「ここがすごい！ニッポンの技術」に当団体活動が掲載(木村)
5月28日	朝日新聞・朝刊「ひと」のコーナーで紹介(木村)
5月31日から6月3日	第5回アフリカ開発会議(TICAD V)で団体活動を紹介(木村・酒井)
6月1日	「アフリカン・フェスティバル in Kyoto」で活動紹介(酒井)
7月4日	2012年度版 ODA 白書、「国民全員参加型の途上国支援」の章で当団体活動が掲載
7月27日	NPO 法人 TICO 主催の「地球カレッジ」で講演(吉野川市)(木村)
7月30日	JICA九州国際センター、教師海外研修プログラム一行がケニア事務所の活動を視察
9月1日	国際開発ジャーナル9月号で木村理事長のインタビュー記事が掲載
9月14日	「京都国際協カステーション」で活動紹介・展示(木村)
9月24日	トヨタの環境取り組みとして、同助成プログラムを受けた当団体活動を紹介

助成事業等

事業名: 農民組織の持続的な活性化に向けた「土のう工法」を用いた農道整備事業(第2フェーズ)

資金協力団体: 外務省、平成24年度日本NGO連携無償資金協力
事業期間: 2012年10月から2013年10月(ケニア)

事業名: ケニア五大水源地の一つチェランガニ山系の森林再生への草の根農民からのアプローチ、草の根の農民が主役、行政、政治を巻き込んだ国の水源地の森林再生モデルの構築

助成団体: 【海外プロジェクト支援】「トヨタ環境活動助成プログラム」2011年度

事業期間: 2012年1月から2013年12月(ケニア)

事業名: Extending the Socioeconomic Benefits of an Improved Road Network to Roadside Communities

発注団体: アジア開発銀行

事業期間: 2009年9月から2013年9月(パプアニューギニア)

事業名: コミュニティ参加による「土のう」を利用した農道整備事業

資金協力団体: 財団法人日本国際協力財団

事業期間: 2012年5月から2014年3月(タンザニア)

農村部の貧困に苦しむ人々の
やる気と自信を引き出すために

「自分たちの道は自分たちで直せる」

という意識を広げたい

2013年度上半期活動概要



ケニア



みちぶしんびと
NPO 法人 道普請人

活動報告

パプアニューギニア

- 1) アジア開発銀行プロジェクトで、8箇所計約 80 km の道路の整備を行いました。2009 年 9 月の契約から約 4 年の活動を経て、今期に終了しました。
- 2) 部族意識が国としての一体感より卓越し互いの対立が多い環境で、住民参加による道路整備事業を行いました。
- 3) 自らが地域発展の担い手、部族間の闘争は開発を停滞させる、という認識、もめ事の平和的解決方法(Give & Take ではなく、Win Win 関係の構築)の研修から開始しました。
- 4) ①住民参加による道路整備に加え、②地元の人々の現金収入向上につながる技能研修、彼らが利用できるローンを自分たちで運営する研修、③保健衛生研修、④女性が利用しやすい乗合交通機関の運用形態の提案と試験事業の実施と、総合的な内容でした。
- 5) パイロット事業として多くの教訓を得て、現地地方行政官へ成果発表を行いました。初めてのプロジェクトマネジメントでしたが、アジア開発銀行担当者から合格点をいただきました。



施工前の様子



施工後の様子



州、県行政官への成果発表の様子(道路省会議室にて)



アジア開発銀行担当者によるコミュニティへのインタビューの様子

ケニア

- 1) 施工業者登録を目指す農民組織と、コーヒー等の生産組合と連携し、約 3,450 m の道の補修を行いました。農作物の市場への運搬が促進される、診療所、学校へのアクセスが改善されるなど、人々の生活の向上が報告されています(外務省 NGO 連携無償第 2 フェーズ)。
- 2) 保健プロジェクトを行う NGO、チャイルドドクタージャパンと連携し、ナイロビのスラム地区、サウスランドの中心道路 230 m の補修を行いました。雨期は下水があふれ歩きにくかった道が、容易に通じられるようになりました(6月)。
- 3) バリンゴ、キリニヤガ、タラカニティカウンティで「土のう」による道直しのデモンストレーションを行い、今後の事業に対するカウンティからの協力を取り付けました(7月)。
- 4) JICA 九州国際センター、教師海外研修プログラム一行がケニア事務所の活動を視察されました(7月)。
- 5) マラクエツトカウンティで、農民組織のティラップアグロフォレストリーアソシエーションにより 16 万本の苗木が生産され、16,000 本が村の共有地に植林されました。3ヶ所の水源に、簡易タンクを設置しました(トヨタ環境保全プログラム)。



水源の湧水取水口付近に設置される、簡易タンクの建設



バリンゴカウンティ、ガバナーによる「土のう」締固めの様子

タンザニア

公益財団法人 日本国際協力財団の助成を受け、ATTI(未舗装道路整備技術研修センター)と地元住民らと共に道なおしを行いました。参加者(4日間):195名。



国内



第五回アフリカ開発会議(TICAD V)にブース出展団体として参加しました。アフリカ各国の関係者や一般来場者、国内外で活躍する NGO/NPO 団体関係者との交流を持つ良い機会となりました。

施工延長(2013年9月末日現在)

	累計(m)	2013年度前期(m)
パプアニューギニア	84,408	25,000
ケニア	16,332	3,400
タンザニア	124	90
ベトナム	111	100
その他(ガーナ、南スーダン、モザンビーク、フィリピン他)	9,358	0
合計	110,333	28,590

会員情報(2013年9月末日現在)

正会員個人	69
正会員団体	12
賛助会員個人	28
賛助会員団体	0
寄付者	17

問合せ先

NPO 法人 道普請人
事務局: 福林良典
Tel : 075-343-7244
E-mail : info@michibushinbito.ecnet.jp
URL : <http://michibushinbito.ecnet.jp>

2013年度下半期活動内容

主な活動	2013			2014		
	10	11	12	1	2	3
ケニア						
外務省H24・25年度NGO連携無償資金協力事業(木村、喜田、松本、本庄、酒井)	—	—	—	—	—	—
トヨタ環境活動助成、環境保全プロジェクト(喜田、松本、本庄)	—	—	—	—	—	—
JICA小規模園芸農民組織強化振興ユニット事業での技術指導(福林)	—	—	—	—	—	—
タンザニア						
コミュニティ参加による「土のう」を利用した農道整備事業(木村、酒井、福林)	—	—	—	—	—	—
モザンビーク						
道路開発公社との土のう工法普及に向けた協議(木村、福林)	—	—	—	—	—	—
ブルキナファソ						
株式会社ア・ダンセと連携した未舗装道路整備(木村)	—	—	—	—	—	—
東ティモール						
アジア開発銀行・JICA協調プロジェクト労働集約工法専門家派遣(木村、福林)	—	—	—	—	—	—
ミャンマー						
外務省H25年度NGO連携無償資金協力事業(木村、酒井、荒木)	—	—	—	—	—	—
ミクロネシア連邦						
JICA太平洋州地域廃棄物管理改善支援プロジェクトでの運営指導調査、土のう工法(福林)	—	—	—	—	—	—
国内						
広報活動(木村、岸田、福林、酒井)	—	—	—	—	—	—

農村部の貧困に苦しむ人々の
やる気と自信を引き出すために
「自分たちの道は自分たちで直せる」

という意識を広げたい

2013年度下半期活動概要



ミャンマー

主な広報活動

日程	内容
10月14, 19日	「清水寺で世界を語る～ともに生きる国際協力」にて活動展示・講演(酒井)
11月8日	テレビ東京「佐藤隆太の地球元気」で活動紹介(木村)
12月24～29日	パナソニックNPOサポートファンド for アフリカ助成事業で、京都で展示・報告会を実施(木村・酒井、福林)
1月13日	京都新聞1月13日朝刊「成人の日に寄せて」木村理事長の記事が掲載
1月14日	安倍総理アフリカ政策スピーチで本団体活動を格好の事例として紹介
1月25日	京都市主催「きょうと地域力アップおうえんフェア」に出展(木村・酒井)
2月28日	同志社大学リーディング大学院、グローバルリソースマネジメント、キャリア形成支援セミナーで講演(福林)
3月26日	公益社団法人 日本道路協会が発行する機関誌「道路」3月号に木村理事長のインタビューが掲載

助成事業等

事業名: 農民組織の持続的な活性化に向けた「土のう工法」を用いた農道整備事業(第二・三フェーズ)

資金協力団体: 外務省、平成24・25年度日本NGO連携無償資金協力
事業期間: 2012/9～2013/9, 2013/11～2014/11(ケニア)

事業名: 住民グループの未舗装道路整備能力強化による農道改築事業

資金協力団体: 外務省、平成25年度日本NGO連携無償資金協力
事業期間: 2013/10～2014/10(ミャンマー)

事業名: ケニア、バリンゴ山間地の農民グループによる樹木苗作りと「土のう」を使った土壌保全

助成団体: トヨタ環境活動助成
事業期間: 2014年1月から2015年12月(ケニア)

事業名: コミュニティ参加による「土のう」を利用した農道整備事業

資金協力団体: 財団法人日本国際協力財団
事業期間: 2012年5月から2014年3月(タンザニア)

事業名: フィリピン農村部の住民参加による河川・ため池の多自然型護岸整備事業

資金協力団体: 公益信託 大成建設自然・歴史環境基金
事業期間: 2013年12月から2014年8月(フィリピン)



みちぶしんびと
NPO法人 道普請人

活動報告

ケニア

① 在ケニア日本大使館森公使を迎え、ナイロビで開催された「土のう」ワークショップに、ケニアの運輸・インフラ省長官が出席しました。若者の雇用創出に大きく貢献する事業と評価されました。今後3年間、政府が行うコントラクター養成のための研修に、「土のう」研修を受けた若者グループの代表者が参加する費用を、ケニア政府が負担する事を約束しました。地方政府(カウンティ)が、トレーニングに必要な礫質土を供給するなど、行政機関からの支援も得られ、「土のう」が確実に定着しつつあります。(日本NGO連携無償協力第三フェーズ)



② バリンゴカウンティの農民グループが、植林用の樹木苗の育成や、畑の段々畑化による土壌保全に取り組んでいます。焼畑など環境に負荷の高い農法から、水源地である森を保全し、アグロフォレストリー等を取り入れた、環境にやさしい農法への転換に挑戦しています。(トヨタ環境助成プログラム)



ブルキナファソ

ウラテンガ村で雨季に渡河部が洪水で遮断される道路箇所の道路整備を行いました。

シアバターを用いた石鹼の販売等を行う、株式会社ア・ダンスと協力しました。



ミャンマー

① エーヤワディー地域・ピャポンタウンシップ(カンター村)周辺住民と共に道路補修工事を行ったところ、自転車やバイクの通行が可能となりました。病院、マーケット、学校へのアクセス時間が大幅に短縮できました。また、バイクタクシービジネスを始める住民も始めています。別の住民はそのバイクタクシーを利用し、市場まで作物を出荷できるようになりました。道路補修技術を習得するだけでなく、住民の収入向上にも繋がっています。

② カレン州・パアン(ユワカレイ村・ラカナ村)地域開発局の協力のもと、雨期になると冠水してしまうエリアで周辺住民と共に道路補修工事を行いました。ユワカレイ村は完成し、ラカナ村は現在施工中で雨季までに終える予定です。(2013年度 外務省日本NGO連携無償資金協力)



施工前

施工後

ミクロネシア連邦



ミクロネシア連邦、チューク島の、廃棄物処分場へのアクセス道路で道路整備を行いました。コーラルサンドという風化したサンゴ礁を利用しました。

タンザニア

公益財団法人 日本国際協力財団の助成を受け、ATTI(未舗装道路整備技術研修センター)と地元住民らと共に道なおしを行いました。5日間で285名の参加者がありました。



国内

「Panasonic NPO サポートファンド for アフリカ」の助成を受け、京都で単独で展示・活動報告会を開催しました。また、飛び出す絵本のパンフレット(日本語・英語)を作成しました。



施工延長(2014年3月末日現在)

	累計(m)	2013年度 下期(m)
ケニア (16,332)	19,628	3,296
タンザニア (124)	302	178
ブルキナファソ	85	85
ミャンマー (120)	1,320	1,200
ミクロネシア連邦	16	16
その他 (ガーナ、南スーダン、モザンビーク、フィリピン、パプアニューギニア他)	93,766	0
合計	115,117	4,775

会員情報(2014年3月末日現在)

正会員個人	87
正会員団体	14
賛助会員個人	31
賛助会員団体	1
寄付者	23

問合せ先

NPO 法人 道普請人
事務局: 福林良典
Tel : 075-343-7244
E-mail: info@coreroad.org
URL : <http://www.coreroad.org/>